

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

①	事業の概要	石油精製業（原料の保管）			
②	貯蔵する危険物の概要	引火点	40℃	貯蔵温度	常温
③	基礎、据付方法の概要	PC杭6本打設し、その上に1.5mの鉄筋コンクリート造の基礎を設ける。タンク下部はアスファルトサンドを敷設する。			
④	タンクの構造、設備	形状	縦置円筒型（コーンルーフ型）	常圧・加圧（ kPa）	
		寸法	内径：2,100 mm 高さ：3,055 mm	容量	10,000 リットル
		材質、板厚	底板 6.0mm (SS400)、側板 4.5mm (SS400)、屋根板 4.5mm (SS400)		
		通気管	種別	数	内径又は作動圧
			無弁通気管	1	40 mm — kPa
		安全装置	種別	数	作動圧
			—	—	— kPa
液量表示装置	フロート式液面計	引火防止装置	⑥ 有・無		
不活性気体の封入設備	専用配管を接合し、タンク内圧が0.05 Pa以下で窒素ガスの封入を行う。	タンク保温材の概要	ウレタンフォーム吹き付け		
⑤	注入口の位置	防油堤内	注入口付近の接地電極	⑥ 有・無	
⑦	防油堤	構造	容量	排水設備	
		鉄筋コンクリート造（高さ800mm、厚さ150mm）	13,430 ℓ	堤内に集水ますを設け、金属管を介して堤外に排水する。	
⑧	ポンプ設備の概要	ギヤポンプ2基（0.5Mpa、モーター2.2kW、耐圧防爆構造）			
⑨	避雷設備	—			
⑩	配管	PLS（ポリエチレン被覆配管）			
⑪	消火設備	第4種粉末ABC消火器50型×1 第5種粉末ABC消火器10型×1	タンクの加熱設備	⑫ —	
⑬	工事請負者住所氏名	千葉県富津市下飯野 2509 番地 1 危険物保安推進株式会社 責任者 富津 危太郎 電話 0439-88-6405			

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

■屋外タンク貯蔵所 構造設備明細書記入要領■

《共通事項》

- ・該当しない欄は斜線等で抹消し、該当する部分がないことを明確にすること。
- ・所定の欄に記入できない場合は〔別紙〇参照〕と記入し、別紙に当該内容を記入すること。

①「事業の概要」

屋外タンク貯蔵所が設置されている事業所の主たる事業概要を記入し、貯蔵目的を括弧書きで記入する。

②「貯蔵する危険物の概要」

ア「引火点」

貯蔵する危険物の引火点を記入する。

なお、中仕切りタンクの場合は、最も低い引火点を記入する。

イ「貯蔵温度」

貯蔵する危険物の最高貯蔵温度を記入する。

ただし、常温で貯蔵する場合は〔常温〕と記入する。

③「基礎、据付方法の概要」

当該タンクを設置する位置の基礎施工方法及びタンク据付方法を記入する。

<記入例>

PC 杭を〇本打設し、その上部に〇mの鉄筋コンクリート造の基礎を設ける。
タンク底部はアスファルトを敷設し、タンクと基礎をアンカーボルト（M20×6本）で固定する。

④「タンクの構造、設備」

ア「形状」

タンク形状を記入し、屋根の型式を括弧書きで記入する。

《参考》

タンク形状	屋根の型式
縦置円筒型	コーンルーフ
横置円筒型	ドームルーフ
角型	フローティングルーフ
その他	カバート（インナー）フロート

イ「常圧、加圧」

圧力が5kPa（水柱 500mm）以下のタンクは「常圧」を○で囲み、その他のタンクについては「加圧」を○で囲み、その圧力を記入する。

ウ「寸法」

タンク形状に応じて、次により記入する。

タンク形状	記載項目
縦置円筒型	内径、高さ（側板の底部からトップアングルまでの高さ）
横置円筒型	内径、胴長、鏡出、全長
角型	縦（奥行）、横（幅）、高さ

エ「容量」

危険物の規制に関する政令（以下「危政令」という。）第5条第2項に規定するタンクの容量（タンク検査済証に記載された容量）を記入する。

オ「材質、板厚」

当該タンクの各部分の板厚を記入し、材料記号を括弧書きで記入する。

<記入例>

縦置円筒型：底板○○mm (SS400)、側板○○mm (SS400)、屋根板○○mm (SS400) 横置円筒型：胴板○○mm (A1070)、鏡出○○mm (A1070)
--

カ「通気管」

(ア)「種別」

〔無弁通気管〕又は〔大気弁付通気管〕の別を記入する。

(イ)「数」

当該タンクの通気管の設置数を記入する。

(ウ)「内径又は作動圧」

無弁通気管にあつては内径を記入し、大気弁付通気管にあつては内径及び作動圧を記入する。

キ「安全装置」

(ア)「種別」

当該タンクが圧力タンクの場合に記入するものとし、危険物の規制に関する規則（以下「危規則」という。）第 19 条第 1 項各号に掲げる種別のうち該当するものを記入し、装置の種類を括弧書きで記入する。

《参考》

種別（危規則第 19 条第 1 号）
自動的に圧力の上昇を停止させる装置（バランスペローズ式安全弁、ばね式安全弁 等）
減圧弁（減圧側に安全弁を取り付けたもの／レギュレーター、二段式減圧弁 等）
警報装置（安全弁を併用したもの／圧力スイッチ＋警報回路 等）
破壊板（逆圧防止付破壊板 等）

(イ)「数」

安全装置の設置数を記入する。

(ウ)「作動圧」

作動圧を記入する。

ク「液量表示装置」

液面計の種類等を記入する。

《参考》

液面計の種類		
フロート式液面計	圧力式液面計	磁歪式デジタル液面計
マグネットフロート式液面計	磁力式液面計	磁歪式高精度液面計
エアパージ式液面計	静電容量式液面計	電波式液面計
ディスプレイサ-式液面計	ガラスゲージ式液面計	超音波式液面計

ケ「引火防止装置」

通気管の引火防止装置の有無について、該当するものを○で囲む。

コ「不活性気体の封入設備」

当該タンクに不活性気体を封入する設備がある場合、設備の概要を記入する。

サ「タンク保温材の概要」

当該タンクの外面に保温材がある場合、保温材の種類及び施工方法等を記入する。

⑤「注入口の位置」

当該タンクに移動タンク貯蔵所等から受け入れる注入口がある場合、注入口の設置位置について防油堤の内側又は外側であるかを記入する。

なお、製造所から配管により受け入れる場合等は〔なし〕又はその旨を記入する。

<記入例>

<ul style="list-style-type: none">・ 防油堤内・ 防油堤外・ 蒸留塔（製造所）から配管で受入れ
--

⑥「注入口付近の接地電極」

注入口付近の接地電極（ローリーアース等）の有無について、該当するものを○で囲む。

⑦「防油堤」

ア「構造」

防油堤の構造を記入し、高さ及び厚みを括弧書きで記入する。

イ「容量」

防油堤の容量を記入する。

なお、2以上のタンクの周囲に防油堤を設ける場合は、当該防油堤内にある最大貯蔵タンクの名称及び容量を括弧書きで記入する。

ウ「排水設備」

防油堤内における雨水等の排水設備の概要を記入する。

⑧「ポンプ設備の概要」

当該タンクの受払いを行っているポンプの種類及び設置数を記入し、最大吐出圧力、原動機の種類、出力及び防爆構造の種別又は記号を括弧書きで記入する。

<記入例>

渦巻ポンプ 2 基（1.0Mpa、モーター0.75 kW、安全増防爆構造）

⑨「避雷設備」

JIS A 4201 で示される受雷部システム（突針、水平導体、メッシュ導体）、保護手法（保護角法、回転球体法、メッシュ法）及び保護レベルを記入する。

なお、他の建築物等に設置された避雷設備の保護範囲内であることにより、当該貯蔵所に避雷設備を設置しない場合は、建築物等の名称及び避雷設備の概要について記入する。

⑩「配管」

危険物を取り扱う配管について、地上配管と埋設配管に分け、それぞれ材質及び外面保護方法を記入し、JIS 規格番号を括弧書きで記入する。

⑪「消火設備」

危政令別表第5の規定による消火設備の区分（第1種～第5種）、設備名等及び設置数を記入する。

《参考》

区分	設備名
第1種消火設備	屋内消火栓 屋外消火栓
第2種消火設備	スプリンクラー設備
第3種消火設備	水蒸気消火設備 水噴霧消火設備 泡消火設備 不活性ガス消火設備 ハロゲン化物消火設備 粉末消火設備
第4種消火設備	大型消火器
第5種消火設備	小型消火器・乾燥砂・膨張ひる石・膨張真珠岩・水バケツ・水槽

⑫ 「タンクの加熱設備」

当該タンクに設置する加熱設備の概要、加熱媒体及び加熱温度を記入する。

<記入例>

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 蒸気配管を 20 号タンクのジャケットに接続し、70 度に加熱する。 ・ タンク内の電気ヒーターコイル（防爆構造）により、60 度に加熱する。 |
|--|

⑬ 「工事請負者住所氏名」

工事請負者の住所、氏名（法人の場合は、主たる事業所の所在地、法人名及び担当者名）及び電話番号を記入する。